

様式第 5 号（教育実習実施計画に関する書類）

教 育 実 習 等 実 施 計 画
1 教育実習等の内容及び成績評価等
① 教育実習等の時期 ＜特別支援教育実習Ⅰ（特別支援学校）＞ 2 年次 5 月～1 1 月 ＜教育支援教育実習Ⅱ（特別支援学校）＞ 3 年次 1 0 月～1 1 月
② 教育実習等の実習期間・総時間数 ＜特別支援教育実習Ⅰ（特別支援学校）＞ 1 週間程度（4 5 時間） ＜教育支援教育実習Ⅱ（特別支援学校）＞ 3 週間（1 2 0 時間）
③ 実習校の確保の方法 特別支援教育実習Ⅰ・Ⅱでは、教育学部附属支援学校を確保している。
④ 実習内容 ＜特別支援教育実習Ⅰ（特別支援学校）＞ 実習Ⅰの前半（1 学期 5 月の 5 日間）では、特別支援学校における授業観察・参加・児童生徒の実態把握を行ない、授業観察力・分析力を高める活動を行う。さらに、後半部分では、3 年次生（教育実習Ⅱ）の授業省察会に主体的に参加することにより、協同的に授業を省察し改善する過程（教壇実習・省察の一連の流れ）を理解することを目指す。 ＜教育支援教育実習Ⅱ（特別支援学校）＞ 児童生徒の実態把握力、授業実践・分析・省察力、チームティーチング力をより一層高めていく活動を展開していく。具体的には、継続的な児童生徒との関わりや観察、実際の学習活動を共にすることを通して、個々の児童・生徒の実態を的確に把握し、実態に即した学習指導案を立案するとともに、実地授業・研究授業の計画・実施・省察を通してよりよい授業のあり方を学んでいく。さらに、教育現場で求められる実践的指導力を身に付けるため、指導教員や他の実習生とともに教育活動全般に取り組み、学習指導、日常生活の指導、学級経営等を協同的に改善・省察をすすめていく。また、研究授業の実践と授業省察会の参加を通して、これまでの大学での講義・演習や教育実習で培った専門的知識・技能の実践化を図るとともに、自らの研究課題を明確に設定した授業研究を推進していく姿勢・態度を養うことをめざす。
⑤ 実習生に対する指導の方法 大学側教員（教育実習関係専門委員会）と実習校側の教育実習担当教員等が、打合会等を通じて教育実習の内容、指導態勢・指導方法等について協議・確認し合い、実習指導に臨んでいる。 また、実習後の反省会において教育実習上の課題・解決策を両方で協議し、次年度の教育実習の改善につなげている。
⑥ 実習の成績評価（評価の基準及び方法） ※ 評価項目表、評価シート等がある場合は、本計画書に添付すること。 ＜特別支援教育実習Ⅰ（特別支援学校）＞ 実習校側が教育実習評価票に基づいて授業実践力、子供理解力、人間関係力、教師として自己を高め

る力の4つ観点から評価し、大学側教員が実習記録（学習指導案を含む日誌等）の内容や自己課題の明確化なども加味して総合的に評価する。

< 教育支援教育実習Ⅱ（特別支援学校） >

実習校側が教育実習評価票に基づいて授業実践力、子供理解力、人間関係力、教師として自己を高める力の4つ観点から評価し、大学側教員が実習記録（学習指導案を含む日誌等）の内容や自己課題の明確化なども加味して総合的に評価する。

2 事前及び事後の指導の内容等

① 時期及び時間数

< 特別支援教育実習基礎研究（特別支援学校） >

3年次1・2学期（30時間）

< 知的障害者指導論Ⅰ・Ⅱ >

3年次4学期（30時間）

② 内容（具体的な指導項目）

特別支援学校で教職を志望する学生が、教育現場で児童生徒と接しながら教師の基盤となる資質・能力を身に付ける教育実習に向けての心構えや準備ができるよう、児童生徒の基本的な特徴を理解するとともに特別支援学校の教育実践に必要な課題解決力の内容を把握し、実践的指導力の基礎を養うことを目的として、学習状況や教師の学習指導の捉え方、授業の構成の仕方、学習指導案の作成手順、学習指導における具体的な教育技術等を中心に内容を構成する。

< 事前指導 >

特別支援学校（視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・知的障害）、特別支援学級（知的障害）、通級による指導における特別支援教育の実際に関する講義を行う。また、本学部附属特別支援学校教員による主免教育実習のための実践的な授業設計や授業づくりに関する演習形式の授業を行う。さらに、特別支援学校の教育実践に必要な課題解決力に関する講義及び演習を行う。

< 事後指導 >

客観パラダイムに立つ行動科学の概念や理論、接面パラダイムに立つ関係発達概念や理論を用いて、実習時における教師と子供、教材との間で生じる様々な出来事を意味づけする。その上で、教師と子供、教材の間のよりよい関係について考察する。4年次のインターン実習に向け、教職実践ポートフォリオにある4つの力の内、特に授業実践力や子供理解力における自己課題解決の一助となることをめざす。

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

- ・ 委員会等の名称

教育学部教育実習関係専門委員会

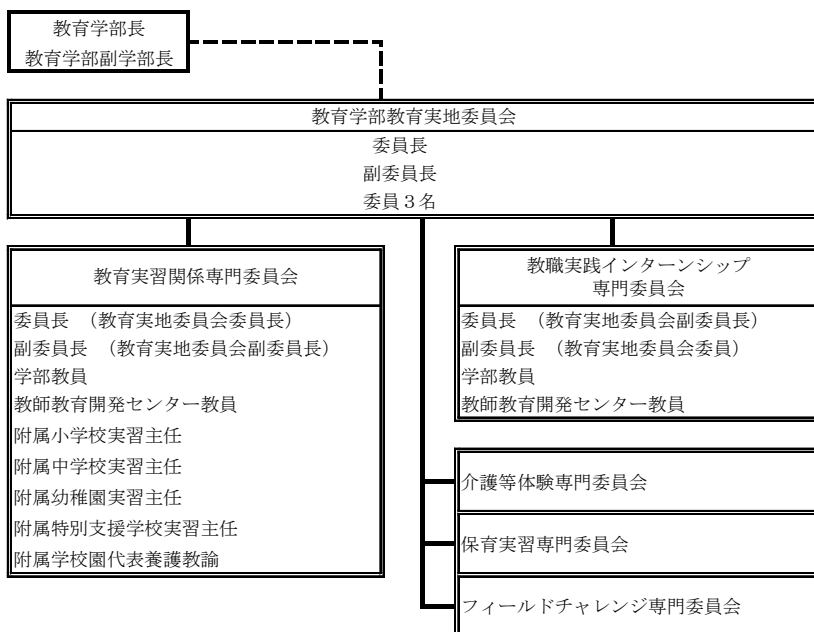
- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）

教育実地委員会委員長，同副委員長，学部教員 8 名，教師教育開発センター教員 4 名，各附属学校園実習主任（養護教諭代表者 1 名を含む） 5 人

- ・ 委員会等の運営方法

月 1 回，教育実習・養護実習の事前・事後指導の運営，実習計画の立案，実習生及び教育実習・養護実習に係る情報共有と諸課題への検討を行う。

【委員会の組織図】



② 大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等（※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。）

- ・ 委員会等の名称

岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・岡山大学教育学部連携協力会議

- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）

岡山県教育委員会教育長，教育次長，学校教育推進監，教職員課長，高等教育課長，高等教育課教育情報化推進室長，義務教育課長，特別支援教育課長，生涯学習課長，福利課長，人権教育・生徒指導課長，岡山県総合教育センター所長

岡山市教育委員会教育長，教育次長，審議監，学校教育部長，生涯学習部長，教職員課長，学校指導課長，教育研究研修センター長

教育学部長，教育学部副学部長，教職大学院専攻長，教育実地委員会委員長，就職学生委員会委員長，

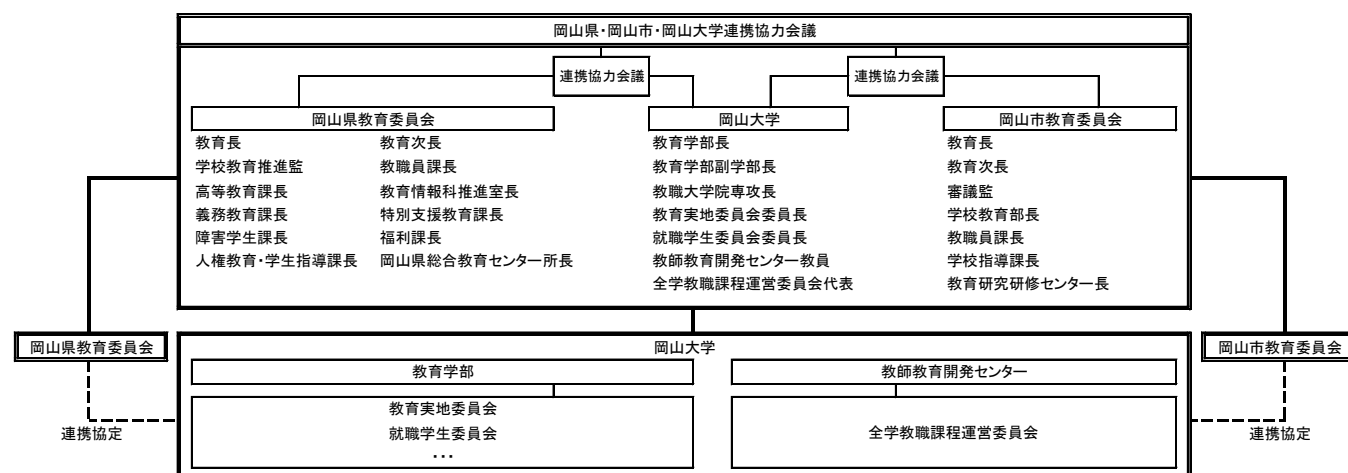
全学教職課程運営委員会代表教員

・ 委員会等の運営方法

6月～7月、岡山市と岡山大学、岡山県と岡山大学との間で、連携協力会議を開催し、岡山市・岡山県が抱える教育課題への対応、教育委員会と大学が協同で行う教員研修のあり方、人材育成指標に基づく教員養成カリキュラム（学部・大学院段階）の改善、教育実習・教職実践インターンシップの改善等について協議を行う。場合によっては特定の検討課題について、教育委員会・岡山大学の実務責任者によるワーキンググループを組織する。

10～12月、岡山市・岡山県・岡山大学三者により、連携協力会議を開催し、共通の検討課題について協議を行うとともに、三者間の連絡調整の円滑化を図りつつ、現職教員の指導力向上、養成段階における教育実践力の向上と教師としてふさわしい資質能力の向上に努めている。

【委員会の組織図】



4 教育実習の受講資格

特別支援教育実習Ⅰ（特別支援学校）の履修資格は、特に無い。

特別支援教育実習Ⅱ（特別支援学校）の履修資格は、実習の履修前までに以下の条件を満たし、計72単位以上修得済みであること。

- ・教育実習Ⅰ 1単位
- ・「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」から14単位以上

5 実習校

教育 実習	体験 活動	学級数の合計	特別支援学校 9 5 学級
○	×	学校名	岡山大学教育学部附属特別支援学校（岡山県岡山市中区平井 3 丁目 9 1 4）
		学級数	学級数：9 児童数：5 7 人
		教員数	3 4 人 （内訳）校長 1 人、副校長 1 人、 教頭 3 人、教諭 2 3 人、養護教諭 1 人、栄養教諭 1 人、非常勤講師 4 人

○	×	学校名	岡山県立岡山西支援学校（岡山県岡山市北区田中 579）
		教員数	学級数：32 児童数：164人 95人（内訳）校長1人、副校長1人、教頭3人、主幹教諭1人、指導教諭1人、教諭65人、養護教諭2人、栄養教諭1人、講師11人、実習教員2人、非常勤講師5人、特別嘱託2人
○	×	学校名	岡山県立岡山東支援学校（岡山県岡山県岡山市東区宋甘 1018）
		教員数	学級数：54 児童数：239人 129人（内訳）校長1人、副校長1人、教頭6人、教諭101人、講師15人、実習助手2人、養護教諭2人、栄養教諭1人

承 諾 書

令和 5 年 1 1 月 2 2 日

岡山大学教育学部長 殿

岡山大学教育学部附属特別支援学校長

竹 本 俊 哉

教育実習の受入れについて（回答）

令和 5 年 1 1 月 1 4 日付け岡大教第 5 2 号で依頼のありました標記の件について，貴学部学生における教育実習校として協力することを承諾いたします。

承 諾 書

令和 5 年 1 1 月 2 8 日

岡山大学教育学部長 殿

岡山県立岡山西支援学校長
山 岡 格 史

教育実習の受入れについて（回答）

令和 5 年 1 1 月 1 4 日付け岡大教第 5 2 号で依頼のありました標記の件について、貴学部学生における教育実習校として協力することを承諾いたします。

承 諾 書

令和 5 年 1 1 月 2 9 日

岡山大学教育学部長 殿

岡山県立岡山東支援学校長
原 田 敬 子

教育実習の受入れについて（回答）

令和 5 年 1 1 月 1 4 日付け岡大教第 5 2 号で依頼のありました標記の件について、貴学部学生における教育実習校として協力することを承諾いたします。